

		TAL-460		TAL-510	
容 量	ベッド上の振り	460		510	
	主軸端面より185mmまでの間	500		545	
容 量	横送り台上の振り	250		300	
	両センター間の最大距離	1000	1500	1000	1500
主 軸	TAL-510のときのみ { 切落し上の振り			710	
	面板端面からの切落し巾 (510φ 面板)			185	
主 軸	速度変換数	12			
	速度範囲 (R.P.M)	25~1500			
主 軸	主軸端の型式	J I S A 1 No.6			
	主軸穴のテーパ	M.T. No.6			
主 軸	センタのテーパ	M.T. No.4			
	主軸貫通穴径	52			
往 復 台	自動送りの変換数	32			
	縦送り量 (mm/rev.)	0.032~0.44 [0.033~0.47]			
往 復 台	横送り量 (mm/rev.)	縦送りの1/2			
	横送り台の最大移動量	260		285	
往 復 台	刃物送り台の最大移動量	145			
	インチネジの種類	32			
ネジ切り	" の範囲 (山/25.4mm)	56~4			
	メートルネジの種類	21			
ネジ切り	" の範囲 (mm)	0.5~7			
	親ネジの径とピッチ	35mm, 4山/ 25.4mm [6mmピッチ]			
心 押 台	心押軸の径	65			
	心押軸のテーパ穴	M.T. No.4			
心 押 台	心押軸の最大移動量	150			
	長 さ	2170	2680	2170	2680
ベ ッ ド	幅	370			
	深 さ	340			
電 動 機	(Kw)	3.7		5.5	
機 械 の 大 き さ	(長さ×巾×高さ)	2468(2978)×1003×1226 / 2468(2978)×1028×1251			
正 味 重 量	(Kg)	2000	2300	2300	2600

[]は親ネジ6mmピッチの時

3 機械の据え付け方法

3-1 吊り上げ

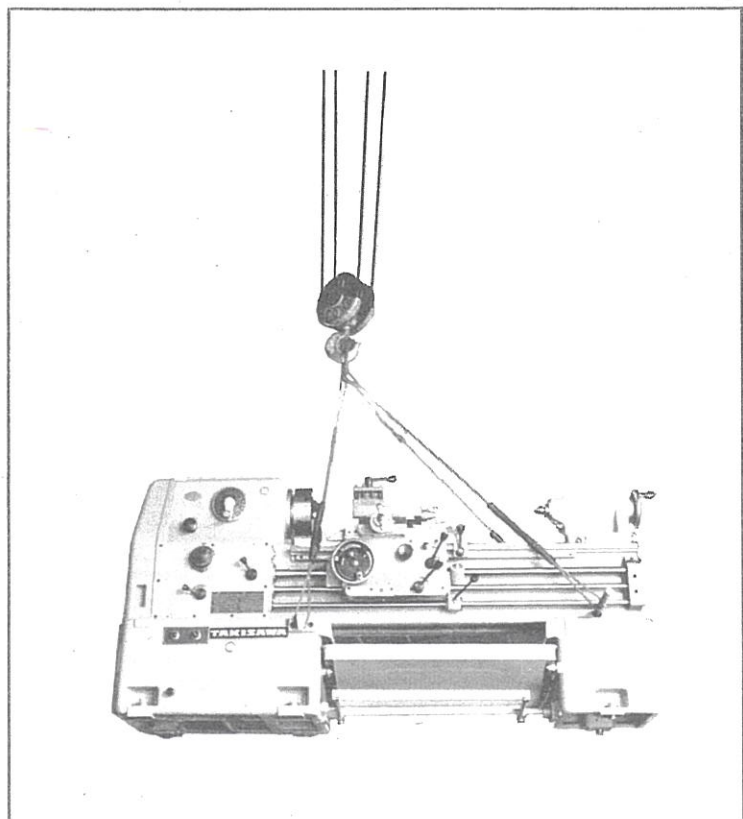
機械を吊り上げるには、主軸台側左脚の前後にある2個の吊り金具にワイヤーロープ(16φ以上)を掛け心押台側のベッド抜穴に鋼棒(30φ以上)を通して、それにワイヤーロープを掛けて静かに吊り上げます。

その際、ワイヤーロープが機械に触れない様に出来るだけ鋼棒の内側に掛け、その釣合いが良好な状態になる様に往復台の位置を調整してゆっくりと吊り上げます。特に機械を下ろす時に床面に激突しない様十分にご注意願います。又、心押台をベッドに固定して置く事も忘れない様にして下さい。

本機の重量はおよそ次の通りです。

TAL460×1000…2000kg TAL460×1500…2300kg

TAL510×1000…2300kg TAL510×1500…2600kg



3-2 据え付け基礎

機械の据え付け基礎は、据え付け場所の地質によって違って来ますが、機械の据え付け後、基礎に沈下や傾きが生じない様、栗石を敷く前に十分に基礎を固く締めて置かなければなりません。

特に地盤が軟弱な場所では、コンクリートの下に松丸太を打ち込んで下さい。

据え付け基礎のコンクリートを打つ時には、基礎ボルトが入る穴をあらかじめ、あけて置くこと。又、電源用パイプを図の位置に埋めて置くことを忘れない様にご注意願います。

なお据え付けに際しては、機械の使用、又、保守の面からも壁等障害物より余裕のある位置に据え付けねばなりません。

基礎図にある寸法は大体の目安を示していますから、据え付け場所の状況により余裕を十分に取って下さい。

本機の所要床面積以上に余裕を取る場所として

- (1)電気装置の保守時における主軸台の向側(反作業側)
- (2)ブレーキ装置或はベルト張りの調整時における主軸台後部側、があります。